

F-REI 業務実績評価における「今後の課題」について

項目	主務大臣評価素案（今後の課題）のポイント
総合評定	<ul style="list-style-type: none"> 「創造的復興の中核拠点」となることを目指し、「基盤作りと存在感の提示」に重点を置きながら、F-REI の総力を挙げて取組が推進されることを期待
(1) 政策体系における法人の位置付け及び役割等	<ul style="list-style-type: none"> 4 機能を最大限発揮できるよう、(2) 以降の課題への対応を含め、総力を挙げて取り組みを進めることを期待
(2) ①研究開発に関する事項 i 研究開発 ア ロボット イ 農林水産業 ウ エネルギー エ 放射線化学・創薬医療 オ 放射線の産業利用 カ 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信	<p>【共通課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な研究開発の進捗管理及び予算執行の適正化を図る必要 ※オ：放射線の産業利用を除く 研究開発や社会実装のイメージについてわかりやすく情報発信する必要 委託研究からの移行も含め研究グループ体制整備を進める必要 研究開発の進展を踏まえ、県内での活動や実証フィールド等の活用を期待 ※オ：放射線の産業利用を除く 研究開発成果については、業務実績によるアウトプットにとどまらず、アウトカム・インパクトを含めた自己評価が行われることを期待 <p>【分野独自の課題】</p> <p>[ア：ロボット]</p> <ul style="list-style-type: none"> 福島イノベーション・コースト構想の中核拠点として整備され、令和 7 年 4 月に F-REI に統合される「福島ロボットテストフィールド」の活用を通じて、世界水準の研究とその成果の社会実装・産業化を進め、当設備を利用する他の企業・研究機関との共同研究等によりその成果の最大化を目指すことが必要 <p>[イ：農林水産業]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本分野の研究開発においては、気候や土壌条件等、地域によって生産環境が異なることを踏まえ、研究期間中から現場とコミュニケーションをとり、研究の成果が被災地域に速やかに実装されるよう取り組むことが必要 <p>[ウ：エネルギー]</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーや水素を地産地消で面的に最大限活用するネットワークの形成に係る研究開発・社会実装を進めるために、福島県に拠点を構える FREA 等の関係機関との連携強化を期待 <p>[エ：放射線科学・創薬医療]</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究開発を持続的に進めるため、将来を担う学生や若手研究者を育成する体制整備の推進が必要 放射線発生装置（加速器）等の施設・設備等の整備に当たっては、研究開発の進捗状況を踏まえつつ、完成後の維持費用、運転人員の確保等も考慮の上、検討を進めることが必要。また、その他の施設・設備の整備に当たっては、本分野の特性を踏まえ、研究開発の社会実装を見据え、ベンチャーを含む企業との連携による新産業創出等を念頭に置いて検討することが必要 <p>[オ：放射線の産業利用]</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究課題の設定に向けた調整・検討の速やかな進展が必要 <p>[カ：原子力災害に関するデータや知見の集積・発信]</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該分野は、原子力災害からの復興と密接に関連した研究開発分野であり、自然科学のみならず社会科学の要素も含まれているところ、これらの研究の成果が今後の復興に活かされていくことを期待
ii 研究開発環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> PI の公募を進めつつ、優秀な研究者を確保し、中期目標期間中の 50 研究グループ体制の構築に向けた取り組みの推進が必要 分野長不在の一部分野については、研究課題の具体化や研究グループの確保に向けた調整のための体制構築が必要 F-REI が行う施設・設備、実証フィールド等の整備については、具体化が図られることを期待
iii 研究開発に係る情報収集等	<ul style="list-style-type: none"> R5 の成果・課題を踏まえ、具体的ニーズ・シーズの把握等が効果的・効率的に進められるよう実施方法の工夫・改善を期待 把握された研究開発のニーズ・シーズや国内外の技術開発動向等をわかりやすく整理・分析した適切な周知が必要 把握したニーズ・シーズの施策への反映ができるよう、F-REI 内の体制整備、きめ細かいコミュニケーションが必要
②産業化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 市町村座談会について、R5 の成果・課題を踏まえ、具体的ニーズ・シーズの把握や浜通り以外の幅広い地域との連携等が効果的・効率的に進められるよう実施方法の工夫・改善を期待 金融機関との包括連携協定に基づき、そのネットワークを生かして、認知度向上、企業とのネットワーク構築に期待。 研究開発において多様な実証フィールドの活用など県内での具体的活動とその産業化に期待 戦略的知財マネジメントに向けて、具体的なマネジメント方針の検討、体制の整備が必要 広報の体制整備及び、研究開発の内容、社会実装のイメージについてのわかりやすい情報発信が必要

<p>③人材育成・確保に関する事項 i 人材育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 放射生態学ユニットの更なる充実、同種の取組のモデルとしての研究人材育成の継続的推進を期待 教育機関等と連携した取組の具体化、新たな機関との連携促進を期待 出前授業などを通じ、多種多様な学びの場を設け、若者世代を対象とした人材の育成への寄与の対外的な明確化を期待。その際、特に地域の復興の担い手を期待される 20～30 代を対象とした取組の充実を期待 企業人材については現地訪問型研修のような地域ニーズに即した更なる専門教育・リカレント教育の展開を期待
<p>ii 人材確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> シンポジウムや MOU などでの連携体制を生かした人材確保に向けた取り組みの具体化による国内外の優秀な研究者の確保を期待 今後、サイエンスコミュニケーターをはじめとする、F-REI の研究開発等に関する情報発信を担う人材が着実に確保され、情報発信が充実していくことを期待
<p>(3) 研究開発等業務の運営の効率化に関する事項（研究機関等との連携、マネジメント体制の確立、経費等の合理化・効率化）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福島県内の機関との連携のみならず、全国、海外の機関との連携を並行して進めることを期待 PDCA サイクルに基づく効率的・効果的な業務管理の推進、国際アドバイザー等の助言等の見える化、積極活用を期待 セキュリティについて業務マニュアルの作成を期待 適切な予算執行体制の構築、合理的かつ効率的な予算の執行、適切な契約締結体制の構築の推進に期待 情報公開を通じた、人件費に関する説明責任の徹底を期待
<p>(4) 財務内容の改善に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関との包括連携協定に基づき、そのネットワークを生かして、認知度向上、企業とのネットワーク構築に期待 産学官ネットワーク等を通じ、研究資金の確保に向けた具体的道筋ができることを期待 R6 厚労科研に応募した放射生態学ユニットに加え、他分野も含め、研究資金の確保に向けた具体的な取組に期待 研究開発分野の着実な成果が必要
<p>(5) その他研究開発等業務の運営に関する重要事項（施設・設備、人事、認知度向上・多様なパートナーシップ構築、規制緩和、情報システムの整備・管理）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設基本計画を踏まえた施設整備に関し、機構内における適切な推進体制の構築を期待 引き続き優れた研究人材確保を可能とする柔軟な人事制度の構築や運用を期待 広報活動の強化に向けた持続的な推進体制の確保が必要 研究開発内容のわかりやすい発信、特に、研究開発への参画や産業化に向けた連携につながる発信への留意が必要 実証フィールドを提供する自治体等に対してわかりやすい情報を発信し、今後のシーズ・ニーズのマッチングにつながることを期待